



地域ぐるみで安全を守る — 地域防災訓練から考える— 校長 是枝 周二

1月17日(水)の「ひょうご安全の日」に地域、保護者のみなさん、関係機関の方々に参加していただき、地域防災訓練を実施しました。23年前の1月17日、私たちが決して忘れてはならない阪神淡路大震災が発生し、6434名の方の尊い命が突然奪われました。私たちはあの未曾有の大震災を風化させることなく、いつまでも語り継ぎながら、地域ぐるみで安全を守るため、環境整備や防災訓練に取り組まなければなりません。



今後かなりの確率で発生が予想されている南海トラフ巨大地震、【負傷者の応急処置訓練】その後の津波などの自然災害は、決して人間の手で食い止めることはできません。しかし、今までの経験と教訓を生かし、防災訓練の成果をしっかりと生かすことができれば、被害を最小限に食い止めることはできます。また、いつ、どこで、どんな災害が起こるかわからないという危機意識を常にもち、その時に身を守るためどんな行動をしていくかという実践的な対応力、判断力を身につけていくことが大切です。当日は、あいにくの雨で計画していたとおりの訓練はできませんでしたが、地域と関係機関と学校が一体となり、「地域ぐるみでみんなの命を守る」という強い気持ちのもと、真剣に防災訓練に取り組むことができました。

安全のためのポイント

弾道ミサイルが発射された・・・近くの建物の中、または地下などに避難する。適当な建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ頭部を守る。屋内に居る場合はきるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

大きな地震が発生した・・・できるだけ大きな家具や窓ガラスから離れて、机の下などに身を隠す。大きな揺れが収まれば、周りの状況を確認し、屋外などの安全な場所に避難する。

津波が発生するとき・・・高台や学校（三階以上）などの津波避難場所へ避難する。

火災が発生した・・・けむりを吸わないようにしながら（低い姿勢をとる・口や鼻をタオルなどで覆う）すばやく避難する。

地域の絆をしっかりと築く

阪神淡路大震災でも東日本大震災でも、救助や復興への大きな力となったのが地域の絆です。地域で顔を知っている者同士が、お互い助け合い、励ましあい、支えあってこそ困難な状況から何とか抜け出すことができました。子ども達には、そんな地域の絆を築く第一歩はあいさつだとお話しています。地域で知った人に会った時には元気の良い、気持ちのいいあいさつをしましよと指導しています。



【本校の美しい雪景色(1/26)】